
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 397 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2017.02.17（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 975 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> TPP 号立ち往生——冷静な議論いまこそ必要 小泉浩郎

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.139』発行されました

<会員著書案内>

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

<編集後記> 「定義はとっても重要だ」

<巻頭言> TPP 号立ち往生——冷静な議論いまこそ必要

トランプ大統領は、格差拡大の元凶の 1 つに自由貿易体制を上げ、アメリカの雇用を減少させる TPP から離脱すると大統領令に署名した。アメリカという運転手を失った TPP 号は、立ち往生の状態にある。途中乗車した日本は、アメリカ不在を機に、TPPこそ自由で公正な経済圏形成のモデルだと運転手をかっでている。さらに出来ればアメリカの再乗車を説得するという。

なぜ、予想を違えてトランプが勝ったのか。なぜ TPP 号から真っ先に途中下車したのか。さらになぜイギリスをはじめ EU 諸国の「自国中心」が俎上にあるのか。日本も同様の問題を抱え込んでいるのか。国のあり方に立ち返る論議が必要であろう。

日本が TPP 参加を表明したのは 2013 年 3 月 15 日（安倍首相）、4 年前である。政府は「国家 100 年の計」「国を開くラストチャンス」と喧伝したが、国論を二分する賛否両論のなか、特に第 1 次産業従事者や暮らしを守る生活者など競争社会に馴染まない人々の反対運動が全国的に展開した。国会でも事あるごとに議論されたが、噛みあわないまま先送り、先行き不透明の国会決議を急いだ。

TPP はだれのための、何のための狂騒劇だったのか。

アメリカ離脱で TPP 発効不能と胸をなで下ろしている層、TPP に代わる日米 2 国間 FTA こそ脅威と警戒を強めている層、さらには、すっかり影をひそめた識者やメディアの論評……。本当に TPP は、自由で公正な経済圏形成の路線を走り明るい未来を約束する高速バス TPP 号だったのか。この立ち往生の時こそ、冷静に考える必要がある。

小泉浩郎

山崎農業研究所所長

yamazaki@yamazaki-i.org

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.139』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.139』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》(巻頭言)

いまなぜベーシックインカムか

—これからの「百姓的」生き方を支える政策提言◎白崎一裕

[第 154 回定例研究会]

グローバル化から「農本化」としてのローカリゼーションへ◎関 曠野

[第 42 回研究所総会・第 40 回山崎記念農業賞]

総会挨拶◎小泉浩郎

第 40 回山崎記念農業賞贈呈式 (栃木県益子町・(株)川田農園)

選考委員報告◎渡邊 博

お祝いの言葉◎加藤敏之／松本 謙

受賞者挨拶◎川田 修

■総会記念フォーラム:

「こだわり」で結び合う農と食—農園と厨房をつなぐ川田農園の挑戦

I 解題: 川田農園が教える食と流通◎小泉浩郎

II 我が国における有機農業の動向◎家常 高

III 栃木県の6次産業化振興と川田農園の特徴◎小林俊夫

IV 「農園」から「厨房」まで◎川田 修

参加者の声◎若林祥子／内田空美子／丸山紀之／堀 泰史

[特別対談]

川田農園の今と明日を語る◎松本 謙×小泉浩郎

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(10)

なぜ日本人は、「天地自然」に惹かれるのか／宇根 豊

<会員著書案内>

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川—多摩川・上水徒歩思考』

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川—多摩川・上水徒歩思考』

農文協、199ページ、定価1700円(税別)

<http://www.amazon.co.jp/dp/4540142631>

※山崎農研HPに関連記事を掲載しています。

玉川上水の奇跡「ひとくい川」(第3話)連載 安富六郎 著

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No6.pdf 第4話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No3.pdf 第3話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No2.pdf 第2話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No1.pdf 第1話

<編集後記> 「定義はとっても重要だ」

山崎農研の定例研究会(02/04)で大熊孝先生の講演「技術にも自治がある—日本人の自然観と水防技術」を聞いた。

そのなかで大熊先生はこうおっしゃった。

「定義はとっても重要だ」

川とはなにか。

大学時代、大熊先生は「河川とは、地表面に落下した雨や雪などの天水が集まり、海や湖などに注ぐ流れの筋（水路）などと、その流水とを含めた総称である。」と教わったそうだ。

しかしここには、循環する水へのまなざしは、そしてその循環する水環境のなかでいとなまれる命へのまなざしはない。この定義がすべてだとすれば、ダムを造ることや川をコンクリート護岸することへの疑問は生まれようもない。

永年にわたる研究と現場との関わりのなかから導き出した、大熊先生の現在の川の定義はこうだ。

「川とは、【山と海とを双方向に繋ぐ、】地球における物質循環の重要な担い手であるとともに、人間にとって身近な自然で、恵みと災害という矛盾の中に、ゆっくりと時間をかけて、【人の“からだ”と“こころ”をつくり、】地域文化を育んできた存在である」

ちなみに【 】の部分は最近つけくわえた言葉だという。

「定義が変わり、思想が変わるにつれて、手段も変わっていく…」

大熊先生はこんなふうにも話されていた。たしかにここ 20 年くらいをかけて、自然へのまなざしもかわりつつあるし、さまざまな工法上の工夫もすすんでいる。

しかしその一方で、大型ダムの建設はいまでもすすんでいるし、治水にかんする基本的な考えを見なおそうといううごきはまだまだにぶい。でも、変化しつつあることはたしかだ。

大熊先生の定義は、抽象的な思考、研究室のなかで生まれたものではなく、現場とのかかわりのなかで紡がれたものだろう。そして、そうやって生まれた定義が社会に影響を与え、今度は、定義を、研究を豊かにしていく。

大熊先生の定義・思想は、【研究と社会を双方向に繋ぐ】川のようなものでは

なかろうか。

2017年02月17日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバル化の次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考—グローバル化の次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：囲炉裏暖炉のある家 tortoise+lotus studio 「書評『自給再考』

<http://iroridanro.net/?p=15533>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半X研究所、執筆者)

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名(見出し)を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末にURLを。

5、JIS X0208 規格外の文字(機種依存文字)のチェックを。

http://www.csj.jp/learned-society/check/new_but/jisx0208-sjis.html

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 398号の締め切りは03月27日、発行は03月02日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第397号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2017.02.17（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』*****